

地域の特性を生かし、もっと集客を！

公共施設視察研修報告

梅雨空の下、陸奥記念館、陸奥野営場、なぎさ水族館の3施設の視察を行った。当日は12名の議員の出席があった。

指定管理者の大野統括マネージャーより概況説明、指定管理を受けて2ヶ年間の取り組み、大島郡への100万人集客目標の中で、3施設は年々下がり続けている現状の中において、集客増への努力面に力が入った説明があった。

現在、食堂の運営は休止状態である為に、野営キャンプ場においては公園と思われているお客様が多く、キャンプはもちろんのことバーベキューもできることをもっとPRして盛上げ、キャンプ用品のレンタル事業への取り組みを力説された。

今年は陸奥記念館40周年ということで、「平和と現代アート」を掛け合わせた企画展を計画されている様子であった。

経営的には赤字経営の状況であるが、黒字化への取り組みにいろんな方策を語られた。

質議に入り議員から「海の駅構想」や、きれいな間近の海を生かしたイベントへの取り組み、入



館料の引き上げ、日帰り客をキャンプなどで泊める努力、食堂の復活、子供たち向けの海のスクールや修学旅行生徒の呼び込み、等々の問題が上げられた。

最近のお客様の傾向として、戦争体験者とか、記憶を持っておられる様な方の来客数が激減していることにも触れ、老人会の団体旅行の減少も一因のようだ。

今後の取り組みについても広く質疑が交わされた後、各施設の説明を受け見学した。

東南海・南海地震に 備えて！

大地震から1年と4ヶ月、今だ目途がたたない瓦礫の処理や、道路、住宅の復興、農・漁業の再生！行って見て来るにはあまりにも遠い被災各県。テレビでしか知ることができない我々は、何とも言えない苛立ちがあるのは、私だけではないでしょう。

南海トラフと呼ばれる、活発で大規模な活断層の影響を受ける本町としても地震、津波対策には万全を期すべきであろう。津波は大島に来て大したことはありません。//という声も聞こえて来ますが、2月の城山小学校4年生（当時）の学習発表会に於いて、外入地区に百数十年前

町政転流

に、20メートルくらいの高さまで津波が来た、とのいい伝えがあるという研究発表がありました。豊後水道を目の前に望む土地柄、あながちうそだとは言いきれまい。

6月議会に於いて、補正予算の中に、海拔表示を設置する為の予算が組まれました。先ず公共施設から始め、主要な場所に設置していくとのことです。しかしながら万が一、東南海・南海地震が起こった場合は、そこに住む住民がお互いに助け合わなければなりません。

その為には普段より自主防災組織を作り、「いざ鎌倉」に備えておくべきではないでしょうか。

自主防災組織にはかなりの地域差があるようです。今一度考えて見るべきと思います。（平野）